

2013 年度 海外語学研修
@UC Davis 報告書



一橋大学 2014 年 3 月

目次

プログラム・コーディネーターより	2
プログラム・カレンダー	3
UC Davis での授業	5
ホストファミリー	8
学外生活	12
参加者のレポート	15
反省会	19

プログラム・コーディネーターより

経済学研究科 橋沼克美

2013年度 UC Davis 海外語学研修の参加者は最終的に 18 人(前年度は 29 人)でした。研修先の都合により一大学の派遣枠が 20 名に減らされたためです。UC Davis の夏季語学研修プログラムは非常に人気が高く、どんどん規模を拡大してきたためインストラクターの人数を確保するのが困難になってきた、というのが派遣枠削減の理由です。

それでも初回オリエンテーションには前年度同様 80 人ほどが参加し、相変わらず関心は高いようです。

前年度のハンタ・ウィルス発生を受けて、今年度は UC Davis と Stanford 海外語学研修プログラムは共にヨセミテ国立公園へのツアーを自粛することを事前に決定しました。

研修期間中カリフォルニア州では大規模な山火事がありましたが、観光客が行かない奥地であり何ら影響がなかったのは幸いです。

プログラム・カレンダー

4月10日(水)	第1回説明会	プログラム概要の説明
4月17日(水)	前年度参加者によるオリエンテーション	
4月24日(水)	第2回説明会	旅行会社によるガイダンス(ビザの説明など) 参加申し込み・各種書類提出・履修登録
5月1日(水)	旅行会社によるオリエンテーション	書類提出+ Q&A
6月19日(水)	旅行会社によるオリエンテーション	ビザ説明会(2回目) および携帯電話説明会
7月3日(水)	危機管理オリエンテーション1	国際課主催
7月17日(水)	危機管理オリエンテーション2	旅行会社主催
7月24日(水)	渡航前オリエンテーション	旅行会社主催
8月8日(木)	成田空港集合	出発。サンフランシスコ到着後大学へ移動。各自ホストファミリーへ。
9月7日(土)	サンフランシスコ空港集合	出発。翌日成田空港到着後、解散
9月24日(火)	反省会	

UC Davis での授業

2013 UC Davis 海外語学短期研修

松本達也

海外短期研修ということで今回 Davis に行ったが気候にも恵まれて総じて素晴らしい研修ができたと思う。ホストファミリーの直前変更などのトラブルもあったことも事実ではあるが、研修に行った一橋生を受け入れてくれたホストファミリーはそれぞれに癖はあるにせよ全体的に「あたり」だった。ホストファミリーと皆それぞれいろんなところに行ったりパーティーを開いたりしていたのが印象的である。CCP の講義は一部 (Interview など) を除き割と日本の大学・高校などでできるようなことだったのは少し残念であった。加えて、残念だったのが聞いていたよりもクラス替えが困難であったということである。クラスを変えてほしいと主張すれば、割と簡単にクラスが変更できると思っていたが実際は違った。一部のプログラムは比較的簡単にクラス変更ができたようだが。クラス変更が困難ということもあり、最初に受けるプレースメントテストで1カ月英語を使う環境に差が出てくるというのはかなり酷だと思う。しかし全体としては英語を話さなければいけない環境下に置かれるのでスピーキングスキルおよびリスニングスキルという点では向上したという手ごたえはあった。また日本には分からない・分かりにくい現地の習慣・スラングなどを直に触れられるのはとても新鮮であった。また英語学習のモチベーションが上がったことも成果の一つだと思う。自分が思っていることを十分に伝えられない。相手が言っていることが理解できず自然と笑って会話をするのが難しいという現実と直面したために、次、英語を使う場面に出くわした時のために英語学習をしっかりと行いスピーキング能力を上げていこうと考えるようになった。この研修に行くのに迷っていた時期があったが、行くのをあきらめなくて本当に良かったと思う。海外研修に行くことに迷っている人がいたならば是非、行ってみることをおすすめする。英語ができないのは当たり前、そのために学びに行ってるんだと思えば気持ちが楽になると思いました。



UC Davis 語学研修 報告

小田切英一

当初の目的である英語の上達に関しては近いうちに受ける予定の TOEFL テストにおいて確認するが、今回得た収穫は上達そのものではなく今後どのような学習をするべきかという道筋の発見である。というのも残念ながら 1 ヶ月ではめざましい進歩があったとは言い難く、今後さらなる日々の学習が必要だと痛感した。特に今回判明したのは自分の発音の酷さであり、住民に取材する授業では自分の発音を理解させるのにかなりの苦勞を要し、ある女性の老人には **your pronunciation is lovely** という皮肉まで頂いた。また往々にして単語の意味や綴りを知っていても発音が全く出来なかつたり聞いて理解できなかつたりしたため、自分で正しく発音する練習が欠けていたということを把握した。つまり単語を目と頭でしか覚えていないため、口と耳での認識ができずただ発音するだけでなく苦手なリスニングにおいてもこれが原因で聞き取れずにいるということが判明した。故に今後の英語の学習では口と耳を使う学習が不可欠である。さらに米国での授業ではほぼ全て参加型であり議論に参加する必要があったが、言いたいことがあっても口に、瞬時に英語に出来ない、文章を頭で組み立てないと文法が全く矛盾した意味不明のものになってしまう等の経験を数多くし、大いにフラストレーションが溜まった。ただ後半になると大分議論に参加したり授業内で発言できるようになった上、教師も非常に上手いもので、私のそういった成長を汲み取って褒めて頂いたりもした。ただやはり咄嗟に発言したり、正しく文法を使うのはまだまだ全くできていない、具体的には同じことを繰り返してしまったり、話している途中につっかえが酷かつたりしたため、こうした **speaking** の向上にはさらなる練習が必要である。ただここでわかったことは、先ほどの内容ともかぶるがそもそも私は英語の文章を口で声にだして読む経験が圧倒的に不足しており、ただ読むだけでもどもりどもりになるため、もっと口に出して読む訓練を積む必要がある。残念ながらこのプログラムでは **writing** に関してほとんど扱わなかったため、ここで特記することはない。今後は TOEFL で高得点を狙い来年の 1 年留学を獲得できるよう英語学習を重ねるつもりである。

UC DAVIS レポート

菱沼希美

今回の Davis への短期留学、全体を通して私はかなり恵まれていたと思います。私はホームステイがとても不安で、渡航前は割と鬱でした。C I E E のケーススタディーなどを受ければ受けるほどに…。しかも成田空港で突如としてステイ先が変更になったのでひとしおでした。18 人中 12 人が変更になっていたことで、まだ不安はまぎれましたが…。でも結果的に私はとてもいい方々のところにステイさせていただくことが出来て、すごく安心しました。週末にもいろいろなところに連れていただいて、食事のときは話につきあってくれて、良い体験をさせていただきました。

クラス分けでは幸運にも一番上のクラスに入れていただくことが出来ました。入ってみた実感としては、事前に聞いていたほどクラス分けに意義があるとも思えないかな、と。話を聞いている

限り、授業の内容、質ともにクラスによって違いがあるわけではなく、本当にただクラスメートが違うだけなのではないかと感じました。とはいえ、やはり一番上のクラスは英語が出来る人が多く、校舎内では常に英語を使うという環境に身をおけたのはやはりこのクラスだった故かなと思います。ですが今回が特別だったのかどうかは分かりませんが、私のクラスは半分以上を日本人の公立中学校の英語教師が占めていたので、単純に外国人と言うくくりでいうなら1つ下のクラスの方がずっと多かったです。また、それ故か私のクラスは授業内では仲良くやっていたものの他のクラスほど打ち解けられたわけでもなかったのも、良し悪しありきだったかなと。でもみなさんととてもいい人で、いろんな背景を持って留学してきた人とお話しできたことはとてもいい経験だったと思います。

肝心の英語力に関しては、なんともいいがたいです。予想通りではありますが、大きく変わった気はしません。ただあっちで過ごすにつれて、臆せず話せるようになったのは確実です。あと6ヶ月の日本からの留学生と比べた時に、スピーキング能力の精密さは変わってもすごく差が出るわけではないのだなというのを感じたので、自学自習が大切なのだというのはひしひしと思いました。

UCDavis 海外語学研修

岩城 凌

八月上旬から一月ほどの間、カリフォルニア州の UC Davis 校に短期留学をさせて頂く機会を得た。UC というの是一种の大学の形態であるが、Davis に位置するこの大学は農業に特化した機関であることがよく知られている。カリフォルニアの吹き抜けるような気候の下、一ヶ月という長い時間を海外で過ごすことが出来たのは私にとってとても有意義で実りの多い経験であった。このような機会を与えていただいた大学関係者を始め、支援をしていただいた様々な方に、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思う。

さて、Davis における授業であるが、200 人程の日本人と、台湾、韓国、ドイツ、トルコ、ベトナムなど、世界各国からのおよそ 50 人程の留学生が、A から R までのクラスに分けられ、クラス単位での授業が行われた。授業内容は発音、文化、イディオム、プレゼンテーション、クリティカルシンキングなどである。始めは日本人の多さに戸惑ったが、日本人同士でも英語で会話をする姿を見かけることも多く、意欲を持って英語を学びに来た学生を数多く見かけることができた。しかしクラス編制の特色上、どうしても日本人しかいない、あるいは英語を話す機会があまりないことも少なくはなかった。また、夏休みということもありネイティブの学生との交流もあまり活発に行うことは難しいと思われる。

日本と最も異なる点は、授業形態ではないかと思う。知つての通り、アメリカにおいては生徒あるいは読み手などが理解出来ない場合、教授あるいは筆者がその責任を負うという慣習があるが、一回の授業で、理解してもらいたいこと、オーディエンスを惹き込む工夫など、発信者が分かりやすく魅力的に伝える必要性というのを強く実感することができたように思う。

ホストファミリー

UC Davis 海外語学研修

中村祐太

つい先日アメリカ合衆国から無事帰国しました。僕にとっての初海外異文化体験となった今回の UC Davis への留学ですが、非常に充実した忘れがたい経験となりました。色々と詳しく留学生活の様子を書き記したいところですが、余白と時間の都合上簡潔にまとめたいと思います。

・授業について

プレイスメントの結果、僕は上から 5 番目の N class でした。最初は elective の授業が取れないので少し残念な気がしていましたが、留学生、日本人教師を含めクラスメートの英語能力が非常に高く(特にスピーキング)、良い刺激を受けました。授業の内容自体も割と高度でしたが、周りの環境こそ違えど、日本における英語の授業とさして変わらないと感じました。しかし総じて英語力向上の大きな助けにはなったと思います。

・ホームステイについて

出発日当日の成田空港でステイ先変更が告げられたことに驚きましたが、結果的にこの変更は大当たりでした。大学から自転車で 15~20 分の好立地、家はプール付き、食事が最高に美味しい、外食にも沢山連れて行ってくれる、息子がイケメン、など僕のホストファミリーは本当に素晴らしい方々でした。会話の時間も多クリスニング、スピーキング共に成長できたのはこのファミリーのおかげと言っても過言ではないでしょう。帰国したこれからも SNS やメールでコンタクトを取り続けていくつもりです。

・放課後、休日について

僕のクラスの授業は4時終了で毎日日没まで4時間ほどあったので、基本的にダウンタウンを色々探索していました。映画に行ったり、アイスやスムージー食べたり... また僕は大学内のジムに会員登録して毎日使用していました。設備が整っており筋トレはもちろん、バスケやバドミントンなども出来るので皆で楽しみました。休日は全て外出していました。たしかサクラメント、SF、LA に行きました。今ではそれぞれ全てが素晴らしい思い出です。

・総括

このように全体として非常に良かったこの語学留学ですが、反省点としてはもう少し英語力的な準備をしっかりと臨むべきだった、ということが挙げられます。ですがこれを契機に英語力の更なる伸長を図ろうという向上心が自分の中に芽生えたことが、留学における 1 番の収穫だと僕は感じています。以上です。



UC Davis での研修を終えて

総山はるか

8月8日から9月8日にかけて参加した UC Davis での語学研修を終えて、感じたことや印象に残ったことを中心にレポートする。

まずは、授業についてであるが、私は選択授業を取ることが出来たので、必修の **Listening and Pronunciation**、**US Society and Culture**、**Intercultural research** に加えて **Critical Thinking** を受講した。日本人の学生がほとんどのなかで、**Critical Thinking** のクラスだけは日本人以外の生徒が多く、フルブライトの奨学生もクラス全体の半数ほどいた。授業形式は事前に記事を読みその内容についてディスカッションをするというものだった。私にとっては記事の内容も難しく先生と他の生徒のやり取りについていくのに精一杯だったりでなかなか発言も出来なかったが、優秀な他の留学生から刺激がもらえるいい環境だったと思う。授業全体を通じて感じたことは、リスニング力をもっと鍛えないといけない、ということだった。スピーキングはたどたどしくてもゆっくりでも大丈夫だったが、リスニングが出来ないと発言する内容すら思い浮かばず議論に全く参加できなくなってしまう。またリスニング力の不足とともに語彙力の無さ、それから自分が今までどれだけ英語の発音について適当にやり過ごしてきたのか、ということを感じ知った。今まで **ESS** で英語を話す機会は持っていたが、そこでは感じられなかった自分の英語の弱点を本場で実感できたことは自分にとって良い経験になった。

私のホストは、学校の美術の先生を引退し今は画家としてゆっくり絵を描きながらペットとともに過ごしている、という年配の女性だった。マザーは身体はあまり良くないので一緒に出掛けることはほとんどなかったが、とてもエネルギッシュな人で政治にも強く関心があり、2人でいろんな話が出来たのが嬉しかったし、印象深い。家はマザーによってペイントされていたのだが、マザーとともに家の壁に「幸福」とペイントしたのは一生忘れないと思う。とても良くしてもら

ったのでこれからも関係を続けていきたい。

研修の思い出ではやはり放課後のアクティビティや週末のトリップも多くを占める。ヨセミテは行けなかったのが残念だったが、野球を観に行ったり友達のホストファミリーにロスに連れて行ってもらったりキャンプファイヤーをしたりと、いろんな思い出が出来たし、特に一緒に行った一橋の人たちと仲良くなれたのが良かった。ただ、今振り返るとこれらは「英語の勉強」というより「お楽しみ」という態度で過ごしてしまったな、と感じるところはある。そういう意味では自分たちで調べてサンフランシスコへ行ったのは良かったと思う。

研修を終えた結論としては、「1ヶ月はやはり短い」ということだ。英語も目に見えて上達したわけではない。しかし、初めてこれだけ長く海外に滞在した私にとってはこの経験は今後の人生で生きてくると思うし、もっと視野を広げたいと実感できた実りのある1ヶ月だった。

ホストファミリーと過ごした一ヶ月

原萌子

私はメキシコ系のホストマザーの Angie と犬の Sherlock のいる家庭に一ヶ月ホームステイしました。家は二階建てで、そのうち自分の部屋とバスルーム、洗濯機、ダイニングのある一階を貸してもらい、洗濯やお風呂は自分の好きなタイミングで使えるという、自由な生活を送っていました。ホストマザーは UC Davis の Humanity 専攻の教授で、日本人の学生を主に受け入れていました。「18才以上はアメリカでは大人とみなすから。」と彼女が言うように比較的ゆるく？とにかく自由に生活させてくれていたので、門限とかは特にありませんでした。とても研究熱心で日本の就職状況とか結婚制度とかについて聞かれたり、お互いに討議したりする一方、毎日夕食後には地域の Community pool に連れて行ってきて、そこで市内のお年寄りの方と世間話したりしてとても楽しかったです。

休日には Davis の Downtown 内にあるメキシコ料理店や映画に連れて行ってきて、アメリカの歴史やラテンアメリカの受けてきた差別などの話もしてくれました。料理はメキシコ料理中心で、朝ごはんはトルティーヤ、夜には豆を使ったチリコンカンを出してくれました。最初は私に気を使ってくれ、毎日サラダを作ってくれていたのですが、最終週辺りではアメリカ的な食事（KFCとか）になり、胃を壊して辛い思いもしました…。

他に受け入れている留学生もいなかったのですが、家では常に一対一で会話をしていました。その分密度の濃い関係を気づくことができましたが、会話や家での生活の中でわからない部分があることを他の人に聞くことができないことは正直きつかったこともありました。でもわからないことはその都度マザーに質問したほうが英語力も上がるし、生活の中でしか使わないイディオムとかも新しく発見できて、とても楽しかったです。

たった一ヶ月でしたが、マザーとは、（もちろん Sherlock とも！とてもなついてくれました。）これからもずっとコンタクトを取り続けたいと思うほどの関係を築くことができました。英語力の向上だけでなく、アメリカの日々の生活を実感できるホームステイは最高の環境でした。忘れられない一夏の思い出です。

海外語学研修 UC Davis を終えて

北敦人

私はこの語学研修を通して、これまでに学んだことのないことを多く学ぶことが出来た。それを以下に書きしるす。

まず、今回の研修は自分にとって初めての海外での、つまり異文化での生活であった。ホームステイをすることによって、さまざまな生活習慣を感じ、見て取ることができた。例えば、日曜日の教会。私のホストマザーは信仰心が強いほうなのだろうか、毎週欠かさず礼拝に行っていた。一週目、私はその礼拝に連れて行ってもらった。そこでは、聖書の朗読や賛美歌の斉唱が普段と同じように同じようなメンバー(高齢者が多め)で行われた様子であった。私はこの経験を通して、このような習慣が日本にもあれば、と考えた。なぜなら、必ず週一回地域の住民が顔を合わせる機会が礼拝という形でそこには存在するからである。教会の台所の清掃やコーヒーマーカーの手入れも週替わりで担当の家庭が決まっていた。このようなコミュニティこそが孤独死の問題を解決させるものなのでは、と感じた。他にも、アメリカでは地域住民で BBQ を開く機会が多くあるようだ。地域交流は日本よりはるかに盛んなように感じた。

次に、今回最大の目的である英語のスキル向上について。UC Davis の授業では英語での議論の場や英語でのプレゼンなどスピーキングの機会が多く設けられ、英語を話すことに対する抵抗感を取り除いてくれる内容のものだった。それどころか、現在はもっと話したいと思うまでになった。これは大きな成長だ、自分自身感じている。また、Listening Pronunciation の授業は特に役に立った。ここでは、ネイティブのアクセント・イントネーションを中心として日本の英語教育ではあまり重要視されていない「ネイティブに伝わる」話し方を学んだ。もちろん、ホームステイ先の家に帰ってからのホストマザーと会話も、スキル向上のよい機会になった。会話では、学校での出来事、これからの予定、日本とアメリカの違い、映画の感想、等など様々なことを話した。

学外生活

UC Davis 海外語学研修

市橋英光

1、はじめに

一か月間という短い時間ではあったがアメリカという異国の地で生活することは容易なことではなかった。しかしその困難と同時にアメリカで得られたものは一か月では想像もできないようなことであり、私の人生でかけがえのない経験であったと思う。その経験は言葉で語るには語り切れないが伝えたいと思う。

2、Davis での語学

海外語学研修というだけあってこの一か月間で重要なのは英語を学習することだ。しかし、ただ学校に通って英語の授業を受けるだけでは不十分であるということを感じたのだ。その理由はただ英語の授業を受けるだけでは英語をリスニングするだけという受動的な作業になってしまっただけで、このようなことは日本にいてもすることが可能だからだ。だからと言ってこの授業を聞かなくてもいいというわけではなく、アメリカならではの面白い授業ばかりだったので一コマ50分の授業はとて興味深い内容で終始先生の話に集中して聴くことができたことは本当によかったと思う。英語の学習でさらに重要だったのはアメリカ人との英語でのコミュニケーションだ。自分の言いたいことを英語で伝えるということはいくらか骨の折れることであり、この一か月間最後まで悩まされる問題だったことは私だけではないだろう。私が意識したのは自分の言いたいことを日本語からただ英語に英訳するのではなく、英語で自分の言いたいことが徐々に考えられるように努力したことだ。そのおかげで研修の最後のほうには英語をあまり躊躇せず発することができるようになったのだ。このように語学研修は英会話という点で重要な課題だったのだと思う。

3、Davis での体験

Davis の環境は大変のどかなものでフレンドリーな人々が多いかなり安全な地域だった。しかし一歩 Davis を離れると様子は一変していた。私はサクラメント、サンフランシスコ、ロサンゼルスに行ったが、これらの地域は治安という面でもとても不安な地域だった。これらの全地域が危険であるというわけではないがその一部では治安が悪い地域が多いのでしっかりと下準備が必要であったのは言うまでもない。ホームレスの人が道端に横たわっていたり、知らない人にお金を要求されたり、品物やパフォーマンスを無理やりに提供して金銭を要求したりとあまり良心的でないような人々が多かった。治安の悪い地域には事前に調べて近づかない、またそのような地域で危険な人に接触したときにどのような対応をするべきなのかというような問題は常に考えていなければならないものであると実感したのはとてもいい経験であったと思う。日本という安全な地域に慣れてしまった私はこのような海外での危険性を十分に理解していなかったのだとも反省させられたのだ。また観光という面でも貴重な経験であった。自分で調べてどこに行くかどのように行くかどのくらいの費用が掛かるのかなどは単にツアーに参加するというだけでは到底

得られないスキルであり、今後の人生で必要なものである。自分で企画して行動することで本来得られなかったであろう経験をすることができたことはとても良かったと思う。自分の頭で考えて自分の足で歩いて自分の目で見るといようなことは素晴らしい経験であったと思った。

4、 Davis での生活

Davis での生活で切っても切れない存在なのはホストファミリーだ。彼らとは一か月間も共に行動してともに生活しなければいけない。このホストファミリーとどれだけよい関係性を築けるかが充実した一か月間を過ごせるかどうかにかかっているということは言うまでもないのだ。相手は人であり、衣食住を共にする家族であるので私は常にホストファミリーとうまくやっていると努力したのはとてもいい経験であったと思っている。

5、 最後に

Davis の環境と人は日本とはまた違った良さがあり、英語の学習以上に身の詰まった一か月間を過ごすことができた。本当に充実した研修であったことを心から喜んでいる。

UC Davis 海外語学研修

遠嶋 遥

プレイスメント・テストの結果、私はNクラスに振り分けられた。はじめは日本人の多さに戸惑ったが、クラスメイトは皆英語を勉強するという意欲を強く持っており、授業外でも英語で話すことが出来た。授業内容は日常会話、プレゼンテーション、イディオム、アメリカ文化研究の4つに別れており、それぞれ非常に学ぶところの多い授業であったが、特にプレゼンテーションの授業の効果が大きかったように思う。その具体的な内容は、自分の選んだアメリカ文化に関するトピックについて教授やクラスメイトを除く10人のアメリカ人にインタビューを行い、その結果をまとめて6分程度で発表するというものだった。私はアメリカの略語についてプレゼンを行い、生きたアメリカ文化に触れることが出来た。

ホームステイ先はアングロサクソン系のシングルマザーで、他に二人の娘のいる家庭だった。また私の他に中国から6ヶ月のプログラムでUCDに留学している中国人の学生が居た。皆初めてのアメリカ、初めてのホームステイに戸惑っている私にとっても親切に接してくれた。特に中国の留学生とは年齢が近いこともあって話す機会が多かったが、彼女の高い英語力に刺激を受けるとともに、最新の中国の事情について英語でディスカッションする機会も持て、非常に勉強になるホームステイだったと思う。

休校日にはアメリカ観光も行った。特にサンフランシスコには二度行くことが出来た。そのうち一度は日本人の学生だけで電車、地下鉄、バスなどを利用して移動した。全く知らない土地で公共機関を使うことは緊張したし難しいものだったがとても勉強になった。また、サンフランシスコという街自体からも多くのことを学べた。一番印象的だったのはデービスとの違いである。デービスはとても国立に似た街で、治安もよく夜出歩いても不安を感じることは多くなかったが、サンフランシスコは全く様子が違っておりホームレスを見かけることも多かった。知識としては

あったが、実際に身体障害のあるホームレスを見た時には衝撃を受けた。

総括して、非常に勉強になる一ヶ月間だった。多くの海外、日本の友人を作ることにも出来たことはもちろん、自分の思考がいかに関国の中に流れる文脈に依存しているかということ
を理解できたのが今回の研修で最も大きな収穫だった。

参加者のレポート

UC Davis での 1 か月を振り返って

奥村陽一

アメリカから帰国して 2 週間ほどたったが、この 1 か月の滞在は非常に有意義で、夢のような時間だったと思う。以下、この 1 か月の滞在を、ホームステイ、学校、放課後や旅行などその他の時間の 3 つに分けて振り返っていきたい。

まずホームステイについて、出発前や最初の数日は、ステイ先の急な変更など、不安が数多くあり、ホストファミリーの英語も理解するのに時間がかかるなどのストレスもあった。しかし、ファミリーと会話していくにつれて、少しずつ自分自身の言いたいことを伝えられるようになり、相手の言いたいこともすぐ理解できるようになることで、そのストレスは無くなっていった。また、学校から帰ってきてすぐや食事の時など、英語の勉強をしているのだからと言って積極的に話しかけてくれたことも、英語での会話への抵抗がすぐ消えたことの一因であったように思う。

次に、学校での生活について、私は学校に行くことに対しては、最も積極的な時期と消極的な時期の差が激しかったように思う。授業に少し慣れてきた 2 週間目くらいの時期は、集中力が切れて先生の言っていることがよく理解できず、よって授業にも積極的に参加できないことで学校へ行くのが面倒に感じるが多かった。しかし、クラスメイトやルームメイトと励ましあったりすることで、この少ない 1 か月の期間を充実したものにしてようと改めて奮起することができた。特に最終週では、最後のプレゼンテーションを終えて少しの達成感を感じつつも、もっとここで勉強したい、1 か月勉強できてよかったと思うことができた。

最後に、私が最も印象に残っているロサンゼルスへの旅行について述べる。この旅行は一橋の友人のホストファミリーが主催したもので、一橋のメンバーとそのファミリーでロサンゼルスへ旅行した。車での移動中、5 歳から 10 歳の子供達と会話したが、意外とコミュニケーションが取れ、英語での会話が最も楽しかったのはこの時であった。

出発前は不安が大きかったこの語学研修も、帰国するころにはもっと勉強したいと思えるほど英語に積極的になれた。このことが自分の中での最も大きな変化であったと感じる。

UC Davis 海外語学研修 レポート

丸岡弘樹

UC Davis での一か月は非常に充実したものであり、また英語に関してだけでなく、アメリカの文化など様々なことを学ぶにおいてもとても貴重な時間であった。このプログラムに参加させていただいたことに感謝をしたい。

さて、このレポートではまず今回の留学で学べたことを記し、次に留学の中での反省点をあげたい。

今回の留学で学べたことの第一はもちろん英語のコミュニケーション能力であろう。毎日英語

で話す先生の話聞き落さないように集中して聞き、ホストファミリーと毎日会話をするという一か月間は私のリスニング能力を上昇させてくれたと感じている。実際、留学期間の最後のほうになると、先生の言っていることのほとんどは理解できるようになり、それより、ほかの国からの留学生の英語を聞き取ることに労力を注げるようになっていた。またスピーキング能力に関してもホストファミリーというシステムのおかげで休日など一日中ファミリーと英語で会話する機会ができ、日本では使うことのない日常会話を使うことができたのは非常に貴重だった。次に留学で学べたことはアメリカ文化についてである。それもアメリカの食事などについてではなく、アメリカの移民問題、教育問題、格差問題実際に起きている問題などを学べた。特に私は選択授業で **critical thinking** という授業を取ったのだが、その授業では、昔描かれた風刺画からその意味を読み取ったり、アメリカンドリームについてのさまざまな視点からの記事を読んで自分の意見を考え、ディスカッションするなど、非常に厳しい授業ではあったが得られたものは大きかった。

一方、今回の留学での反省点はやはり、授業外で外にいるとき、あまり英語を使えなかったことであろう。周りのほとんどが日本人であるというこのプログラム上、外国人と常に一緒にいることは難しいであろうとはわかっていたが、やはり外国人の集団に飛び込む勇気を持つことはできず、いつも日本人といることになってしまった。もっと外国人と交流していればより英語力は上がったであろう。

このように反省点もあるが、この一か月間で得られたものは大きい。これらを失うことなくこれからの大学生活に役立てていきたい。



大濱雄介

Davis で過ごした1ヶ月は今まで過ごしてきたどんな1ヶ月よりも充実していたと思う。日々チャレンジできる環境のなか、新鮮で刺激的な生活を送ることができてこの上なく楽しかった。

そもそもこのプログラムに参加しようと思った一番の理由は語学力の向上である。ただ自分自身、たった1ヶ月ほどの留学で劇的に英語が上達するなどということは期待していなかった。これをきっかけに英語力の継続的向上を図ることができればよいと考えていた。

実際に、プログラムを終えて飛躍的に英語力が伸びたという実感もない。しかし、このプログラムは自分にとって非常に意味のあるものであったと確信している。アメリカで実際に英語を使って生活していくなかで、実体験でなければ分かり得ないいくつかの発見をすることができたからだ。日常生活ではどの程度まで語彙力が必要で、授業レベルになるとその水準がどの程度まで上がるのか、といったような感覚的な知識を蓄えることができたのは僕にとって大きな収穫であった。今後の学習計画を立てる上で、目標地点を容易に想像でき、確信をもって英語学習を継続できるからだ。実体験に基づく根拠ほど確かな動機付けはないであろう。アメリカで過ごした1ヶ月は、今後の長期的な英語学習における指針を立てる上で非常に役に立つものとなるし、学習に対するモチベーションの源にもなるだろう。

また、英語学習という観点以外でも非常に価値のある経験ができた。ほかの国から来た留学生と交流できたことは自分の想像以上の喜びであった。お互い母国語が通じないがゆえに自然と普段以上に誠意を持ってコミュニケーションをとっていた。その結果余計な装飾や回りくどい表現はなく、シンプルで正直な会話が生まれ、意思疎通できること自体が大きな喜びであった。また、言語や文化は違っても人間としての根幹は同じなのだということも肌で感じることができた。国際交流がこんなに楽しいということは自分にとっても意外で、自分の新たな一面を知ることができたし、将来グローバルに働きたいというかねてからの思いを一層強めることができた。最後にホームステイ経験にも触れておきたい。わが子のように接してくれたホストファミリーのおもてなし精神は感謝してもしきれないものであった。損得を超えてお世話をしてくれたホストファミリーの方々の生き方は尊敬できるものであり、今後も連絡を取っていくつもりである。そして彼らに会うためだけにでもまたデービスに行きたい、そう思えるほどこの1ヶ月は満足度の高い時間であった。

The experience in Davis

Haruka Kaseyama

In this report, I will write my most important memories and my feelings after participating in the program at UC Davis this summer.

I took four classes, Listening and Pronunciation, US Society and Culture, Intercultural Research Program, and Critical Thinking. I liked US Society and Culture most. In my Class, there were many

Japanese students. But in Critical Thinking, Which was elective, most students were not Japanese. And there were Fulbright students. That class was hard for me, actually, but I think it was good environment for challenge. Through the classes, I realized that I have to improve my listening skill. And in order to do so, I thought I have to increase my vocabulary, and I have to practice correct pronunciation.

My host family was only one old woman, who keeps two dogs and four cats. She is an artist, so her house was very cute. I was impressed and I really liked it. She was an energetic person and talked a lot about everything, including politics. I had good time to talk with her. She was very attractive person. I painted the wall of her house and wrote ‘幸福’, which means ‘happiness’ in Japanese, with her. It was biggest memory with her.

In weekends, I participated in some field trips offered by UC Davis. I went to watch baseball games, and I went to Los Angeles, and so on. They were very fun. I think it was good to go to San Francisco by ourselves.

One month has passed so fast. I don't think my English improved so much. But for me, because it was first time to stay such long in a foreign country, it was good experience to feel the difference between Japan and other country. And I became more positive to go abroad after this program.

反省会

研修からの帰国後、全員にレポートを提出してもらい、9月24日(火)に反省会を行った。前年度はハンタ・ウィルス騒動があったが参加者に実害はなく安心したのを覚えている。

今年度はヨセミテ公園ツアーが中止になったせいか、学外生活の感想はあまり盛り上がらなかったように思う。しかし、研修授業は全員が有意義だったと感じており、またホストファミリーに関しても(毎年心配する点であるが)大きな問題もなかったようである。

反省会の初めに、学生2名に撮ってきた写真のスライドショーと解説をしてもらったが、帰国間もないとはいえ皆懐かしそうに画像に見入っていたのが印象的だった。

全体として「反省」というよりも、人生の転機になるかも知れない貴重な体験をしたという「確認」の場になったといえる。